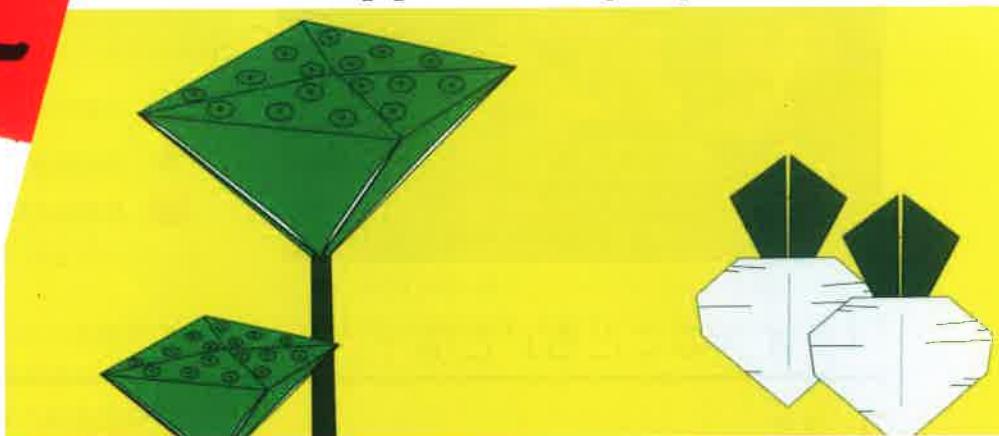


子どもは未来をつかみたい

2018年度年次報告 2019年度年次計画
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスの子ども

ຂໍວຍເຫຼົ້າກ່ຽວ



ສໍາເລັດ

目次

2018年度 第17期 事業報告

この1年	p2
ラオスでのプロジェクト	
I. 本に出会い、親しむ(読書推進活動)	p3
II. 本をつくる(出版プロジェクト)	p4
III. 集い、表現し、学び合う(子どもセンター)	p4
日本での活動	p5
組織の運営	p6
2018年度 第17期 会計報告	p7
2019年度 第18期 事業計画・予算	p8
第8次中期計画	p10



- | | |
|---------------------|-----|
| ★ 中等学校の図書館県政津整備事業 | 1ヶ所 |
| ★ 学校図書室(HakAnn)整備事業 | 5校 |
| ■ 高校生のための奨学金事業 | 2都県 |

「ラオスのこども」とは？

はじまり

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人などが、「ラオスの子どもたちも日本の人たちと一緒に絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものでした。1990年代に入り、今はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本とをつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援しました。

めざすもの 子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の組織の理念は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自

らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくることです。

これまでの取り組み、成果

昨今、当会は読書推進活動の拠点として、学校と地域に焦点を当てています。新設のみならず、立ち上げてきた図書室を訪問し、繰り返し丁寧に指導をおこなうことで、図書活動を活発なものとさせています。

ラオスの小中高校10,625校(小学校8,867校、中学校1,758校)のうち、317カ所で図書室(うち16カ所は地域文庫)を開設し、2,732校に図書セットを配付。2,318校でフォローアップをしました。

出版活動では、民話、創作絵本、紙芝居や海外作品の翻訳など、多彩な出版をしました。今年度末までに、ラオス語図書 223種類 911,255冊(図書187/紙芝居20/教科書類6/ニュースレター10)を現地出版しました。

学校外において子ども同士で様々な活動ができる「子どもセンター」を、これまでに全国14ヶ所で運営支援をしてきました。

2018年度 第17期 事業報告 (2018年7月1日～2019年6月30日)

この1年

ヴィエンチャンの街を歩くと、大規模な建設工事にともなう何本もの巨大なクレーンが目立ちます。きれいで新しいショッピングセンターなど、新たな開発も進んでいます。中国主導の鉄道建設も随分進んできました。街を走る車も増える一方です。しかし、全体的には数年前の活気は失せ、ショッピングセンターを歩く人は少なく、工事途中で放置された投資目的の建物や囲いに覆われたままの敷地も見受けられます。中国経済の減速がラオス経済に直結していることを実感するとともに、先行きの不安も持ちます。

このような社会状況においても、地方と都市の格差、持てる人と持てない人の格差は、相変わらず縮まる様子はありません。ラオスの人々が自らの力で成長を育むようになるため、子どもたちの権利が守られるようになるためには、まだまだ教育の質の改善や機会格差の是正が必要とされています。

活動の課題、重点的取り組み

活動は、「読書推進活動」、「出版プロジェクト」、「子どもセンタープロジェクト」の3つのプロジェクトを中心とした第7次中期計画(2016年7月～2019年6月)にのっとり進められました。

読書推進活動では、外務省日本NGO連携無償資金協力事業が始まり、これまでの学校図書館活動を学校の中で完結させるのではなく、地域の村教育開発委

員会(VEDC)という行政システムを機能させ、図書館を含む学校運営をサポートすることで、活動の持続性を確保するという野心的な事業が始まりました。一方、出版や子どもセンターのプロジェクトでは、スタッフの時間や予算が確保できなかったことなどにより実施出来なかつた活動も多く、課題が残りました。

組織運営では、準備不足から予定されたラオス政府との活動覚書(MoU)の締結が大幅に遅れ、活動を進める上でおおきな枷となったほか、スイスファンドにより助成を受けたプロジェクトの報告書類に不備があり、精算が大幅に遅れ、運営に影響する問題もおきました。第7次中期計画の中で、ラオス事務所の能力強化を重点項目として取り組んできましたが、まだまだ十分で無いことが明確になりました。東京事務所での資金調達では、定期的な各種募金プログラムの実施や、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどによる情報発信が継続された結果、多くの皆さまのご支援をいただきと共に新たな寄付者を得ることができましたが、独自資金で会の活動基盤を支えるまでには至りませんでした。

財務状況では、公的資金がほぼ一年間途切れたこと、未払金・短期借入金などの精算などにより、大幅な期間赤字となりました。経常経費が公的資金に依存している体質が改善できていないことを痛感するとともに、第8次中期計画を実施する中で、優先的に改善すべきと考えています。

最新 ラオス教育データ

小学校の純就学率*1の推移（全国平均）

年度	純就学率(%)		
	計	女子	男子
1995-1996		65	72
2005-2006	84		
2010-2011	94.1	93.3	94.9
2015-2016	98.8	98.5	99.0
2017-2018	98.8	98.6	99.1

小学校入学児童が卒業する割合2017-2018

全国平均	80.4%
最低県 セコン県、チャムパサック県	70.4%
アタプー県	72.3%

小学校の就学率は年々上がっており、ラオスの教育環境は徐々に改善されてきていますが、未だに5人に1人の子どもは小学校を卒業できていないという現状があります。都市部と地方の格差は広がっており、地方では3人に1人が卒業していません。また、中等学校を卒業する生徒はさらにそれを下回っています。

中等学校*2の進学率と純就学率 2017-2018

小学校卒業者の中等学校進学率	88.0%
中等学校前期課程(1-4年)の純就学率	65.1%
中等学校後期課程(5-7年)の純就学率	36.9%
中等学校へ入学した生徒が卒業する割合	55.4%

(出典)教育スポーツ省統計情報センター
(2010年度以降はAnnual School Census)

*1 純就学率：教育を受けるべき年齢に実際に教育を受けている人の割合

*2 中等学校は7年間あり、日本の中学、高校レベルにある

I 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスではこれまで、図書館や書店が身近にない地域が多く、学校で読み書きを習っても、学校を離れると日常で文字にふれる機会がなく、やがて読み書きができなくなってしまうという状況が続いていました。新しい知識や技術を学びたいと思っても、読み書きができないとチャンスが限られてしまします。そこで当会では、子ども達に本を届け、読書の楽しみを伝える活動をおこなってきました。ラオス国立図書館、教育スポーツ省、県・郡教育局と連携し、1992年から約3,000校に図書セットを配付し、317校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図ってきました。

そして今、私達が取り組んでいるのは、子ども達の「もっと読みたい」「もっと学びたい」を支える活動が、ラオスの人々自らにより担われ、広さと深さを持つようになることです。そのため当会は、学校教員、教育局、保護者、地域住民など子どもを取り巻く人々が本に関心をもてるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

5ヶ所の小中学校に図書室をオープン

新規開設は、3都県にて、2中等学校と3小学校の5か所で実施しました。開設にあたっては、図書室に必要な図書と本棚、読書用の椅子を整備し、オープン時には読書推進活動のノウハウを提供するセミナーを実施しています。

既存の学校図書室のフォローアップ活動は、過去3年間に開設した学校図書室及び地域文庫計38カ所に対し、補充図書セット(67タイトル1,507冊)を送付しました。活動状況の調査は、まとまった形では出来ていませんが、学校に立ち寄った際には状況調査とアドバイスをおこないました。

新規開設は計画通りに実施出来ましたが、既設の図書室のフォローアップはスタッフの時間と費用の確保が難しく、十分に出来ていないことが課題です。



（ご支援：愛知県立常滑高等学校、沖電気工業㈱愛の募金、福岡那の香ライオンズクラブ、昭和薬科大学附属高等学校中学校、（公財）ベルマーク教育助成財団、夏募金2018）

中等学校での図書館建設整備事業

3月1日に在ラオス日本大使館にて署名式を実施し、生徒数の多い中等学校で図書館を整備する事業を開始。3年間の計画で今期は以下のよう取り組みをしました。

1) 関係機関との協働枠組みの構築

3月29日、ヴィエンチャン県教育スポーツ局(PESS)、ポンホーン郡教育スポーツ局(DESB)、ポンサイ中等学校の村教育開発委員会(VEDC)の計5名に対し、事業計画詳細の説明、期待される役割の確認等のオリエンテーション会議をおこないました。

5月13～15日に、ポンホーン郡DESBスタッフ4名に「図書館運営」、「教育政策推進におけるVEDCの役割」についての研修を実施。ラオス国立図書館及び教

育スポーツ省スタッフによる講義と、VEDC向け研修(2019年8月8～9日実施)の実施計画案を作成しました。また、本事業の専門家(図書館情報学)には、日本の図書館事情の講義、事業アドバイザーには各研修の調整をおこなっていただきました。



2) 図書館の建設

建設会社との契約、施工監理専門家との契約後、120m²、本棚10台、70席の規模の図書館建設を開始。工事は順調に進み、2019年10月に完成となりました。

本事業は、ラオスの「村教育開発委員会(VEDC)」という行政システムを機能させ、図書館運営サポートを組み込み、持続性を確保するという取り組みです。NGOである当会が国立図書館、国、県、郡、村の各行政機関と協働するには、調整に困難も多くの労力と時間を要する、大きなチャレンジです。

（日本NGO連携無償資金協力事業）

事務所併設子ども図書館の活動状況

週6日の開館を継続しており、来館者数は昨年より少し増加し、1日平均25人となりました。スタッフが交代でおこなうミニプログラム(折り紙、塗り絵、図画工作、手作りゲームなど)は、継続して実施しました。ミニプログラムを通して、子どもたちの利用向上に努めているものの、各スタッフが子どもたちが興味を示すアクティビティを実施する能力を更に身につけるなど、当会図書館の魅力度をアップする必要があります。

また、毎年8月に受け入れていた大学生ボランティアによるリコーダー＆創作ダンス教室は、希望者が集まらず開催されませんでした。恒例行事として楽しみにしていた子ども達もいた為、継続されなかつたことは残念です。9月～11月は、日本人学生インターンが昼休みに利用する子どもたちとのプログラムに参加しました。

II 本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店や図書館がほとんど見当たらず、本を目にする機会がありません。子どもたちが本に親しむには、ラオス語で書かれたものが不可欠なことから、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人やタイ人の専門家による絵本作りセミナーを開いたり、コンクールを通して若手作家を発掘・育成し、これまでに223点911,255部の本や紙芝居を出版しています。近年は消費社会が進み、ファッショナブルな情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。首都では図書を販売する場所が少しずつ増えていますが、一方で、子ども向けの書籍はバラエティが少なく、質の向上が課題です。私たちは「子どもの心に灯をともす」ような、質の高い本作りを目指しています。

人気の図書10,00冊を再版

今期は、図書2作品、紙芝居1作品、計10,000部を出版しました。全て再版作品です。

① ② ③



①『HakArnマニュアル』(学校図書室運営マニュアル)
第2版 作)ダラー カンラヤー他 3,000部

②『折り紙ハンドブック』
第2版 作)アムパボーン ラッタニヨート 5,000部

③ 紙芝居『さかなのおんがえし』

復刻版 作)ブンルート シヴィサイ

謄写版画(1997年ヴィエンチャン紙芝居セミナー参加者全員共同制作) 2,000部

ご支援:学習院女子大学 絵本出版指定募金

ラオス事務所スタッフの人材育成の一環として、11月に日本から編集の専門家を派遣し、出版研修を実施しました。スタッフの力量を考えると、ゼロからオリジナル作品を作るのではなく、ラオスで人気の高い海外絵本のラオス語訳版の出版に取り組み、出版の力を身につけた方が良いという判断から、日本の福音館書店から出版されている『おおきなかぶ』のラオス語版を出版することを決定し、著作権の手続きなど準備をすすめました。2019年度に出版予定です。

III 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は座学による暗記が中心で、音楽、図工、体育はカリキュラムはあっても、指導ができる先生がいない、道具や材料がないといった理由で、子どもたちの情操面を伸ばすような活動をする機会がないという状況がありました。そんな中、1994年に、当会などの協力によって、自己表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、活動は定着し、同様の施設が全都県に設置され広がりました。しかし近年は、社会の変化にともない、子ども達のニーズが多様化することで、来館者が減少し、活動が停滞している館が増えてきています。当会では、自立を促す方向から、各センターの個別支援を減らしてきましたが、センターの活動再建のために、再度サポートをしていくことにしました。

センターで折り紙ワークショップを実施

大好評の「折り紙ワークショップ」をボリカムサイ県「子ども文化センター」及び同県ターパバーツ郡、ヴィエンチャン都パークグム郡にて4月～5月に各3日間で実施しました。ボリカムサイ県子どもセンターでは、センタースタッフをはじめ、パクサン郡の学校教員29名が参加しました。今回扱った折り方は、複雑なものも少なくありませんが、参加した先生たちは3日間20種類以上の折り紙製作に根気強く挑戦し、様々な折り方を覚える意欲的に取り組んでいました。これまでの開催時より参加者の反応が良く、意欲的な姿がみられました。

会場となった「子ども文化センター」には週末には子どもたちが利用しに来ており、研修の3日目を土曜日としたことから、子どもへの指導実習時間を設けることが出来ました。実際に指導をしてみることで、子どもたちへの説明方法がしっかりと理解され、より実践しやすい内容に改善されました。また、参加者同士の交流・情

報交換を図るためのネットワークを作り、研修終了後も、学校での実践がフォローできるようにしました。

また、ワークショップの合間に、子どもセンター館長



やスタッフをはじめ、同センターに配属された青年海外協力隊隊員などから話を聞き、活動状況の把握に務めました。

ご支援:キヤノン株式会社、冬募金2017)

IV もっと学ぶことが出来るように（その他受託事業）

高校生のための奨学金事業

タイのThe Siam Cement Public Co., Ltd.(SCG)からの受託事業7年目。昨年度に引き続き、高校生（中等学校5年～7年生）を対象として、教育局と協力しながら、ヴィエンチャン都全域及びカムワン県4郡にあるすべての公立中等学高校に願書を配布。書類選考の後、審査員が直接学校や家を訪問し面接をおこないました。ヴィエンチャン都160人、



カムワン県140名、計300名の奨学生を決定し、1年間の奨学金を提供しました。また、今年度より大学や専門学校へ進学した学生10名への奨学金の支給もSCG社により開始されました。

奨学金事業の意義は高いものの、事務作業が煩雑化しており、都や県教育局のスタッフの人材も不足しております。当会スタッフの作業負担は少なくない事業です。

その他の受託事業

昨年に引き続き、World Vision Laosからの要請で、1か所の学校図書室に設置する図書と図書室運営用の備品セットの準備を受託し、実施しました。

日本での活動

日本では、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもインターンやボランティアの仲間とともに作り上げています。

中学校・高等学校で授業

町田市立真光寺中学校、足立学園中学校へ講師派遣や、東京女学館中学校からの訪問を受け入れ、開発教育プログラムや絵本作り体験のプログラムを実施しました。真光寺中学校では、例年同様、学習院女子大学の開発教育チームと連携して実施しました。その他、大田区立入新井図書館にて、ラオスの教育状況などを紹介するイベントにも協力しました。

参加型プログラム

●ラオス語絵本プロジェクト

今年度のプログラム参加は25件で、合計550冊の絵本が作成されました。大口の取り組みが多かった昨年度に比べると件数も冊数も減少しましたが、一昨年までと同等の実績となりました。



この2年間担当インターンを配置し、翻訳シートの改訂データ化を進めてきましたが、継続出来る担当者を配置出来ず、作業が止まっています。また、図書リストの見直しの検討は実施することができませんでした。

●書き損じハガキの収集

キャンペーンにより、収集を強化する計画でしたが、実施出来ず、寄付の枚数、件数共に減少しました。1年間で58件、書き損じハガキ・未使用ハガキ合計1384枚、未使用切手57,306円のご支援をいただきました。

活動ミーティング

会員、ボランティアが集まる活動ミーティングは、スタッフの出張報告やイベントの振り返りなど計3回開催し、延べ31名が参加しました。活動ミーティング内でおこなった、ミニ勉強会などの企画は好評でしたが、参加者がなかなか増えていません。

イベント開催

ラオス伝統の草木染めの織物や様々な民族の刺繡を使った小物などの展示販売をおこなう「織物展」を今期は計4回実施しました。

毎年4月に開催している、ラオスの正月を祝うイベント「ピーマイパーティ」は、124名の参加者を得て、ラオス料理を味わっていただき好評でした。

また、当会の活動に関心のある、中高大学生の個人やグループの訪問受け入れをおこないました。

組織の運営

1. 全体運営

■理事会

理事7名、監事2名により運営が担われ、理事会は4回開催しました。参加はのべ26名で、財政状況、資金調達、プロジェクト運営、MoU更新についての報告、中期計画の振り返り、策定のための討議のほか、組織運営強化の方策などが話し合われました。

■通常総会

9月15日、2018年度通常総会を活動会員33名（書面表決者、委任状を含む）、活動協力者7名、計40名が参加し、ライフコミュニティ西馬込で開催しました。

■運営

ラオスでの運営のための規程や手引き整備は、進めることが出来ませんでしたが、代表、事務局長、ラオス事務所長との合同会議は、不定期ながら数回実施し、運営調整、事業調整をおこないました。

会員数は、学生会員が減少することにより、活動会員は15%ほど減少しましたが、賛助会員数は昨年とほぼ同数を維持しました。

ラオス事務所スタッフの能力向上を図るため、NGOの果たす役割を理解をする内部研修も実施しました。

■広報

各種活動を紹介するために、ホームページ、ブログ、facebook、Instagram、Twitter、新聞記事など、様々な媒体で情報の発信を増やしました。

紙媒体としては「ラオスのこども通信」を年2回、計300部発行しました。例年3回の発行でしたが、業務量及び各種送付物のタイミングを考慮し、今期は2回の発行としました。

これらの各種媒体を使った広報活動の強化により、寄付者、支援者の人数は少しづつ増えています。

2. 東京事務所

■体制

10月に1名退職、1名入職し、年間を通じて、常勤専従スタッフ2名、常勤非専従事務局長1名で運営を担当しました。また今年も会計ボランティアスタッフ2名、インターン6名の継続した協力により、大いに事務局が支えられました。東京都へ認定特定非営利活動法人の継続申請書を6月に提出しました。

■資金調達

テーマを定め呼び掛ける特別募金の達成率は、夏募金は65%、緊急募金は105%と、過去3年間の特別募金において達成率が最も高くなりました。災害への支援に賛同して下さった方多かったことに加え、特別募金が定着してきた成果であるともいえます。

オリジナルカレンダーは、『くだものをかぞえよう1. 2.

3』を1500部制作しました。リピーターも多く大変好評で、昨年とほぼ同じ売上となりました。

マンスリーサポーター制度は、積極的な取り組みができていないことで、登録者の増加は多くありません。センター制度の目的や意義をより知っていただく必要があります。

3. ラオス事務所

■体制

以下の7~8名により運営されました。

事務所所長	1名
常勤専従スタッフ	5名（1名5月に退職）
日本人駐在員	1名（4月入職、赴任）
アドバイザー	1名

大幅に遅れていたラオス政府との覚書（MoU）は、5月に調印できましたが、今回のMoUは当会の活動全部を網羅していないことから、更に他の活動をカバーするMoUの締結が必要とされ準備を進めています。

中期計画評価や新規計画策定に取り組むことで、スタッフがNGOとしての活動全体をこれまでよりも見通せるようになりつつあり、話し合いでの意見交換も盛んとなっています。

■プロジェクト進捗管理

セミナー実施などの際、事前事後のミーティングが徐々に徹底されるようになり、東京事務所と共有され、業務ごとの報告書の作成も改善されてきました。

スイスファンドのLao Cultural Challenge Fund支援による事業は、昨年度に事業が完了し、報告書を提出していましたが、先方の様式の変更に対応出来ておらず、再度提出が必要となりました。このプロセスで、ラオス事務所の対処力が十分で無い部分を、東京からの支援で解決しましたが、精算が大幅に遅れました。

■資金調達

図書の販売については、担当者が引き続き積極的に取り組んだ結果、委託販売先が20か所から34か所に増加しました。しかし同店舗で2年目以降になると売上が減少してしまうことから、合計の販売冊数は減少しています。また、昨年よりは減少しましたが、引き続き、国際NGOからの当会出版図書の購入があります。



2018年度 第17期 会計報告 (2018年7月1日～2019年6月30日)

活動計算書

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	892, 000
2.受取寄付金	5, 409, 027
3.受取助成金等	20, 427, 473
4.事業収益	5, 040, 311
5.その他収益	22, 057
経常収益計	31, 790, 868
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	9, 222, 671
(2)その他経費	19, 483, 428
事業費計	28, 706, 099
2.管理費	
(1)人件費	3, 211, 124
(2)その他経費	4, 302, 426
管理費計	7, 513, 550
経常費用計	36, 219, 649
税引前当期正味財産増減額	-4, 428, 781
法人税等	70, 000
当期正味財産増減額	-4, 498, 781
前期繰越正味財産額	8, 417, 621
次期繰越正味財産額	3, 918, 840

貸借対照表

科 目	金 額
I 資産の部	
1.流動資産	17, 936, 168
資産合計	17, 936, 168
II 負債の部	
1.流動負債	14, 017, 328
負債合計	14, 017, 328
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	8, 417, 621
当期正味財産増減額	-4, 498, 781
正味財産合計	3, 918, 840
負債及び正味財産合計	17, 936, 168

今期は経常収益が昨年よりも減少し、正味財産増減額が大幅なマイナスになりました。ラオス政府との活動覚書の締結が遅れたことによる、助成金事業の開始がずれ込んだことや、未払金・短期借入金などの精算が大きな要因です。図書の販売やラオスの織物や料理の販売などからの事業収益も、昨年を下回りました。特別募金は昨年を上回ったものの、他の項目収入が増えず、大幅な赤字となりました。

当会は、NPO法人会計基準に沿った会計システムで会計処理をおこなっています。より詳しい資料は、当会ホームページにてご覧いただけます。

事業別損益の状況

科 目	経常収益計	経常費用計
出版事業	752, 935	639, 883
図書館建設整備事業	6, 402, 280	6, 003, 147
学校図書室整備事業	4, 664, 475	4, 901, 706
子どもセンター事業	78, 707	450, 847
奨学金事業	12, 625, 193	11, 645, 873
特別実施事業	0	271, 798
交流事業 *1	923, 460	916, 493
収益事業 *2	3, 983, 445	3, 876, 352
事業部門計	29, 430, 495	28, 706, 099
東京管理費	1, 802, 163	4, 882, 522
ラオス管理費	558, 210	2, 631, 028
管理部門計	2, 360, 373	7, 513, 550
合 計	31, 790, 868	36, 219, 649

*1 図書室整備事業には、現地事務所併設図書館運営費、読書推進プロジェクト統括費用が含まれます。

*2 交流事業は、各種イベントの参加費、ラオス語絵本プロジェクト、講師派遣・訪問受入などです。

*3 特別実施事業の収入は、前期の指定募金です。

監査報告書

特定非営利活動法人 ラオスのこども
代表 チャンタソン インタヴォン 殿

2019年8月31日

特定非営利活動法人 ラオスのこども

監事 矢崎芽生 殿
監事 脇田康司 殿

私たちは、特定非営利活動法人ラオスのこども 第17期 2018年7月1日から2019年6月30日までの事業年度における、事業及び会計の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表ならびに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会に出席し、理事及び事務局から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて、業務の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載事項と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告書の内容は、眞実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令の定款に違反する重大な過失はないと認める。

以上

2019年8月31日に脇田康司監事(弁護士)、矢崎芽生監事(公認会計士)により、監査がおこなわれ、上記の通り、監査報告書を受け取りました。

2019年度 第18期 事業計画 (2019年7月1日～2020年6月30日)

□背景と方向性

第7次中期計画の評価を踏まえ策定した第8次中期計画(2019年7月～2022年6月)が今年度から始まります。この中期計画では主要3プロジェクトを継続とともに、これまで37年間手掛けてきた事業の成果をより高めるためのフォローアップ活動を重視しています。読書推進活動では、学校図書館の運営に地域の人々が深く係わる方法を作り、地域での読書推進が継続的、安定的に進められるように取り組みます。さらに、活動地域の中等学校での奨学金事業を開始するなど、これまでの係わりを踏まえた新しい展開にも取り組みます。図書出版事業では、日本の出版社から著作権を取得してラオスで「おおきなかぶ」を出版するなど、ラオスの出版を刺激する企画をおこないます。

組織運営においては、昨年度大幅な赤字となった反省を踏まえ、資金調達により力を入れ、さらに運営の明確化、効率化をすすめることで、経常経費の公的資金への依存度を下げる努力をおこないます。またラオス事務所においての人材育成に積極的に取り組みます。これらの改善により、東京とラオス両事務所の一体化した組織運営が可能となり、国際協力NGOとしての活動の質を高め、長期的に安定した運営ができるよう取り組みを続けます。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の9名です。

理事 ・飯川 桃子 ・塩谷 光 ・新藤 雅章 ・チャンタソン インタヴォン ・西村 恵子
・野口 朝夫 ・森 透
監事 ・矢崎 芽生 ・脇田 康司

ラオスでのプロジェクト

I. 子どもたちが読書に親しむ環境を整える「読書推進活動」

●中等学校の図書館整備事業

ヴィエンチャン県において、3か所の中等学校で図書館の整備をおこないます。事業は3か年の計画で実施し、初年度はポンホーン郡ポンサイ中等学校で、2年目は同郡サカ中等学校と、ヒンフープ郡の中等学校で事業を実施。各校で図書館を建設すると共に、教員や生徒へ図書館研修を実施します。さらに、学校を管理する村教育開発委員会と連携する体制を作ることで、持続する活動として定着することを目指します。



●学校図書室の整備

小中学校の空き教室に本と本棚を提供し、図書室運営に関する教員研修をおこない、学校に図書室を整備することで、子どもたちが日常的に図書に接する機会をつくる活動を継続します。特にこれまでに設置してきた学校図書室の活動の停滞化を防ぐため、フォローアップを強化します。

新規開設は7か所で実施します(うち4か所は、昨年ダム崩壊により被災したアッタプー県の学校が対象)。フォローアップは、ヴィエンチャン都及びヴィエンチャン県を中心に合計15か所で実施します。各図書室を訪問し、活動状況調査を、管轄教育局と協力しておこないます。

●ALC図書館(ラオス事務所併設図書館)活動

配架や展示を工夫し読書に興味が湧く空間作りや、子どもたちが主体的に参加するアクティビティを工夫し、子どもたちの満足度を高め、来館者数の増加をめざします。既存の活動内容を継続的に実施するとともに、年間で1～2回新規活動を企画実施します。また、図書の配架と展示に関するスタッフ研修をおこないます。

●新規事業の案件形成

これまでの読書推進事業の実施経験を活かし、内容を発展させた読書推進事業を3年後 начиная с началом дляに、案件形成のための調査・検討をおこないます。

II. 子どもたちに良質な本を提供する「出版活動」

専門家のアドバイスを得て、質の高い図書を計画的に出版します。出版については、文化継承を意識した本、著作権を得た海外翻訳本などを含めて、多様な本を計画的に出版できる体制をつくります。

福音館書店出版の『おおきなかぶ』ラオス語版を出版。また、ヴィエンチャン事務所提案の新刊「アッタプーの詩(仮題)」の企画をすすめます。1～2タイトルの図書または紙芝居の再版をおこないます。

スタッフが図書制作業務に関わる技術(編集、デザイン、校正)を習得できるよう研修を実施します。

III. 子どもたちの居場所と音楽や創作表現活動の機会 を提供する「子どもセンター運営支援」

子どもたちの環境が変化する中で、来館者数が減少し、活動が停滞しているセンターが増えているなかで、各子どもセンターの運営安定のために、どのようなアドバイスや支援ができるかを検討していきます。

当会が設置・サポートしてきた子どもセンター(CCC/CEC)の状況を調査し、支援・連携するセンターの検討と選択をおこないます。また、センターに関する青年海外協力隊員および元隊員との情報交換をおこない、センターの活動状況や課題の把握に努めます。

IV. 奨学金事業

2012年より受託実施してきた高校生(中等学校5年～7年)対象の奨学金事業を継続します。奨学金受給者は、ヴィエンチャン都160名、カムアン県140名、合計300名を予定しています。

上記の受託事業の7年間の実施経験に基づき、新規奨学金事業を立案します。Iの事業地(ヴィエンチャン県ポンサイ中等学校)にて、奨学金の給付を開始予定です。

日本での活動

日本では、ラオスの状況や実施事業を紹介すると共に、自己資金の拡充のために、各種イベントの実施、出前講座活動、ラオス語絵本プロジェクトを展開します。イベントは、ラオス理解、活動理解の促進となるよう、目的、成果を明確にした上で参加します。また、新たな支援者、協力者の拡充のため、新規名簿登録者、フェイスブックのフォロワーの増加をめざします。

資金調達及び支援者拡大として、使い残し・書き損じハガキの収集に力をいれます。個人協力者に加えて、企業・学校・団体からの協力を得るとともに、新規支援者の開拓をします。

組織の運営

「市民性を大切にしながら、より専門性をもつNGOとして」安定した活動が継続するよう、東京、ラオス両事務所間での情報共有を深めます。事業運営における論理性を常にチェックすることで活動の質を高め、研修などによりスタッフの能力を高め、組織の運営能力の向上を図ります。広報活動を強化し、支援者を増やすために、ファンドレイジングの手法により資金調達をすすめることで、経常経費の公的資金への依存度を下げます。

2019年度 第18期 予算 (2019年7月1日～2020年6月30日)

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	1,060,000
2.受取寄付金	6,150,000
3.受取助成金等	31,000,000
4.事業収益	6,050,000
5.その他収益	50,000
経常収益計	44,310,000
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	9,300,000
(2)その他経費	26,885,000
事業費計	36,185,000
2.管理費	
(1)人件費	3,100,000
(2)その他経費	4,200,000
管理費計	7,300,000
経常費用計	43,485,000
税引前当期正味財産増減額	825,000
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	755,000

これまでの寄付金及び事業補助金を維持しながら、「ファンドレイジング」に基づき、新たな寄付者を獲得するために、コミュニケーションツールの対象(読者)に応じた発信活動をおこないます。年に2回の特別募金の実施を継続するとともに、マンスリーサポーター制度を促進し、新規の加入を得るようにします。また、遺贈制度の開始に向けて研究をおこないます。

ラオスにおいては、これまで以上に、図書の販売に力を入れ、販売実績のデータを整理し分析しつつ、図書販売委託先を5か所増やします。また、フェイスブックなどを用いる図書販売の広報に取り組み、販売量を上げます。

奨学金の受託事業を継続するとともに、国際機関、国際協力NGOからの図書セット制作の受託事業を継続します。さらに、自己資金拡充のため、ラオス国内の企業や団体へむけた募金(寄付)パッケージを検討します。



第8次中期計画 重点項目 2019年7月～2022年6月

2018年度第4回理事会で、これから3年間の活動方針となる、第8次中期計画が決定されました。

□全体方針（重点目標）

- 1.これまで手掛けてきた3事業「読書推進」「出版」「子どもセンター」を着実に実施し、より質の高いものとします。
- 2.上記活動を支える募金力を高め、自己資金の拡充に努めます。
- 3.上述1. 2. の重点目標を達成するために、人材育成に取り組みます。
- 4 東京事務所とヴィエンチャン事務所のより緊密な連携を構築します。

I プロジェクト

項目	戦略目標
1 読書推進	<中等学校の図書館建設> ・読書環境が十分でない大規模中等学校で、図書館を設置し、村教育開発委員会(VEDC)と協働しながら、図書館活動の活性化と定着を進める
	<学校図書室の整備> ・既設置学校図書室を再活性化する ・新規図書室の設置
	<ALC図書館活動> ・土曜開館を維持し、スタッフによる日常的な子どもたちに対する働きかけを継続する ・図書室活動でのノウハウを得る
	<新規事業案件形成> ・これまでの経験を生かし、内容を発展させた、読書推進事業の案件を形成する
2 出版	<質を意識した出版事業> ・専門家のアドバイスを得て、質の高い書籍を出版する ・文化継承を意識した本、著作権を得た翻訳本など、多様な本を計画的に出版できる体制をつくる ・市場を意識した出版を企画する ・デジタル図書出版に対応できるように準備をする ・将来的な自立を目指し、可能性を検討する
3 子どもセンター	<時代に合った施設運営支援> ・子どもセンターが安定した運営が可能となるようアドバイスをする ・地域の文化継承に結びついた活動を検討する ・青年海外協力隊員 元隊員と連携した活動をおこなう
4 奨学金事業	<独自事業の形成> ・継続して事業を受託 ・新規奨学金事業を形成
5 日本国内事業	<支援者拡充の意識> ・各種イベント:効果と効率を考えた選択的な主催と参加 ・出前講座活動:開発教育として実施 ・ラオス語絵本プロジェクト:支援者拡大及び開発教育として実施 ・書き損じハガキ収集:資金調達及び、支援者拡大

II 組織運営

1 事業運営	東京	・成果の継続と発展を重視する ・専門家の助言を活かし、読書環境の充実に取り組むことで、活動の質をより高める ・会員及び支援者の継続率が向上するとともに新規支援者を獲得する ラオス	・事業運営の前提となるラオス政府との覚書、各種許可などに費用な要件を着実に実施する
2 組織運営	東京	・事業の評価指標が整備され、事業が適切にモニター、評価される ラオス	・業務分掌規程と職務推進マニュアルの整備が進み、効率的な働きとなる ・事業の実施において、事業立案、計画、評価活動のサイクルが実施される ・活動理念、使命の共有が進む ・業務分担が明確になり責務を果たす
3 資金調達力	東京	・これまでの寄付金及び事業補助金を維持しつつ「ファンドレイジング」に基づいた新たな寄付者を獲得する ラオス	・定期的な特別募金の実施と、マンスリーサポーター制度の定着と促進 ・図書の委託販売先を49か所に増やし、販売冊数を増やすと共に、出版計画と連動した販売戦略をたてる ・奨学金の受託事業、NGOなどからの図書セット制作の受託事業を継続する ・自己資金の拡充のための募金パッケージが開発される
4 人材育成	東京	・専門家とアドバイザーの指導と協力を受けつつ、着実な人材育成に取り組む ラオス	・所長のマネージメント能力を高める



特定非営利活動法人ラオスのこどもは、
今なお十分な教育を受ける機会がないラオスの子どもたち
の成長を願い、1982年から日本とラオスを中心に活動
を続けている国際協力NGOです。おもに、「図書・紙芝居の出版」「学校・地域での図書室設立」「先生向けの図書室運営・図書活用の研修」「作家・編集者の育成」、子
どもが集い遊び学べる「子どもセンター」の運営支援など
を行い、子どもが自ら学ぶ力を伸ばす環境づくりに取り組
んでいます。

組織の理念

「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献する
ことを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を
主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しなが
ら、読書に親しみ環境をつくります。

(認定) 特定非営利活動法人**ラオスのこども**

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303
TEL/FAX 03-3755-1603 E-mail a1ctk@deknoyalao.net
<http://deknoyalao.net>